

## 《巻頭言》

## 禁煙みやぎ30年の歩みとイエローグリーンキャンペーン

山本 蒔子

NPO法人禁煙みやぎ 理事長、一般社団法人日本禁煙学会 副理事長

## はじめに

今年の世界禁煙デーと禁煙週間の特筆すべきことは、イエローグリーン(YG)キャンペーンが全国各地で行われて、多くの施設がライトアップされたことでした。このYGキャンペーンに関して、地元のNPO法人禁煙みやぎと宮城県における活動をご紹介します。

## 宮城県における禁煙活動の始まり

私たちの禁煙活動は、1994年に日本禁煙推進医師歯科医師連盟宮城支部を結成したときに始まりました。1995年に「第1回世界禁煙デー・宮城フォーラム」を開催し、以来継続して毎年開催し、禁煙啓発活動をしてきました。東日本大震災の2011年、第6回日本禁煙学会学術総会開催の2013年、コロナ禍の2019年から2023年には5月開催ができず、禁煙推進・宮城フォーラムとして10月や11月に開催しました。

2001年の第7回フォーラムにおいて、地域の医療保健団体との連携が必要と考えて、「タバコ対策ネットワークを目指して」をテーマに、仙台市保健医療課、仙台市医師会、仙台歯科医師会および宮城県薬剤師会とシンポジウムを行いました。そしてこれをきっかけにして2002年2月に「タバコ対策ネットワーク・みやぎ・せんだい」を宮城県と仙台市の各医師会、各歯科医師会、各薬剤師会および宮城県看護協会の7つの医療団体と宮城県と仙台市の行政と私たちの医師連宮城支部の10団体で結成しました。2008年に禁煙みやぎと名称を変更し、NPO法人の承認を得ました。これら7団体には賛助会員としてなって頂きました。後に、宮城県結核予防会や宮城県栄養士会も加わりました。

以来、緩やかなネットワークと情報交換およびお互いの活動への協力を行い、年1回の連絡会議を開催してきました。毎年開催してきた宮

城フォーラムにはこれら団体から名義後援を頂き、フォーラムのお知らせや報告は宮城県医師会報に投稿しました。なお、2008年の第14回宮城フォーラムからは、本誌にも報告として掲載されています。特に、2019年の第25回宮城フォーラムは「禁煙宣言はオール宮城で!」をテーマに、宮城県医師会会長、宮城県歯科医師会会長、宮城県薬剤師会副会長、宮城県看護協会会長、宮城県健康推進課に参加して頂き、シンポジウムを行いました。

## ネットワーク団体との活動

改正健康増進法が2018年7月に成立し、2020年4月から全面施行することになりました。宮城県議会棟や仙台市議会棟は永く屋内に喫煙室を設置しておりました。改正健康増進法の施行を機会に喫煙室の撤廃を訴えて、禁煙みやぎは宮城県議会議長には2019年11月に、仙台市議会議長へは2020年1月に、議会棟の完全禁煙要望書を手渡しました。この活動には宮城県医師会や仙台市医師会が賛同し、ついに議会棟は完全禁煙となりました。

しかし、改正健康増進法が施行されてから、屋内で喫煙できなくなった喫煙者が、県庁や市役所等行政機関が多い市中心部の勾当台公園に、大勢集まってきて喫煙するようになってしまいました。禁煙みやぎでは公園に設置されているコンクリート製の3個の大灰皿の撤去を2021年2月4日に仙台市長に要望しました。ところが翌日の河北新報に、仙台市はJT東北支社と共同で、公園の3か所に喫煙所を設置する案を発表しました。禁煙みやぎは2月10日に仙台市長と公園課長に抗議文を提出しました。子どもたちの遊び場であり、市民の憩いの場である公園に喫煙所を作ることは許されない、喫煙所からは必ず煙が漏れることを訴えま

した。さらに、ネットワーク参加団体にも禁煙みやぎの抗議をお知らせし、賛同をお願いしました。その結果、医師会、歯科医師会、薬剤師会や看護協会から次々と抗議文が仙台市に寄せられました。日本禁煙学会や理事の方々からも抗議が届きました。仙台市はこの展開に驚いたのか、2月25日に喫煙所の設置案を凍結しました。

### YGキャンペーン2023

今回のYGライトアップは2023年に日本禁煙学会が各地に拡大することを提案しました。宮城県医師会には、福島県医師会会長からお願いがありました。宮城県医師会は賛同を決めて、郡市医師会にライトアップ実施をお願いしました。宮城県医師会館、仙台市医師会館、仙台市医師会附属看護学校、仙台放送TV塔、白石城、涌谷城、などがライトアップされました。禁煙みやぎの事務局を置いている角田市の金上病院では、禁煙みやぎの副理事長である安藤由紀子先生が、ご自身の金上病院や介護老健施設をライトアップしました。角田市にはJAXA角田宇宙センターがあり、市内の台山公園には実物大模型H-IIロケットがあります。このロケットのライトアップができました<sup>1)</sup>。ライトアップは今まで禁煙活動には興味を持たなかった人たちにも大変好評でした。この年7月に開催したタバコ対策ネットワーク会議ではYGキャンペーンの意義や宮城県におけるライトアップ実施状況をお知らせし、来年の参加を呼びかけました。

### YGキャンペーン2024

2024年は、さらに拡大することができました。宮城県医師会の環境保健委員会が中心となって、「宮城県YGキャンペーン推進会議」<sup>2)</sup>を立ち上げました。これには今までタバコ対策ネットワークを作ってきた団体がすべて参加し、その他にも、地元新聞の河北新報、スポーツ団体、東北大学病院、東北医科薬科大学病院、東北学院大学等広く参加がありました。この推進会議では、YGにライトアップする方法の検討やキャンペーングッズとして、バッジ、ポスター、チラシ、ポケットティッシュ、クリアファイルなどを各団体が作成し、配布しました。禁煙みやぎでは、このキャンペーンの意義を周知するために、5月26日に「第30回世界禁煙デー・宮城フォーラム」を開催し、テーマを

「宮城・仙台を美しいイエローグリーンに！～分煙では受動喫煙は防げない～」としました。

5月31日とそれに続く禁煙週間には、昨年にも増して多くの場所のライトアップができました。宮城県は県庁の18階、宮城テレビTV塔や三井アウトレットパーク仙台港観覧車をライトアップしました<sup>3)</sup>。大崎医師会の依頼により、鳴子ダムのライトアップができました<sup>4)</sup>。禁煙みやぎの事務局がある角田市に依頼し、実物大模型H-IIロケット(日本禁煙学会のYGキャンペーンフォトコンテストで2位に入賞、[図1](#))のほかに、市民センター、阿武隈急行の角田駅、角田警察署、角田市役所が加わりました<sup>5)</sup>。禁煙みやぎの宮城フォーラムに会場を提供している、仙台の老舗百貨店の藤崎は、屋上の恵比寿神社をライトアップし、屋上のビヤガーデンを訪れた市民にアピールしました<sup>6)</sup>。

このキャンペーンが成功した要因は、1. イエローグリーンが優しい色であって自然に共感を持ったこと、2. ライトアップをいろいろな施設に呼び掛けたり、個人が自身の医療機関や薬局でできたことなど、自ら行動したこと、3. ライトアップしてみると美しく反響があったこと、4. 多くの団体がキャンペーンに加わったこと等が挙げられます。

また、禁煙みやぎが30年という永い間禁煙啓発活動を続けて、地域にネットワークを築き上げていたことも、宮城県におけるこのキャンペーンが成功する基礎になったのではないかと思います。



図1 角田市台山公園 実物大模型H-IIロケット

## 引用文献

- 1) <https://kinenmiyagi.org/yg2023.html> (閲覧日：2024年7月17日)
- 2) <http://www.doh.med.tohoku.ac.jp/miyagiyc/aim.html> (閲覧日：2024年7月17日)
- 3) <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kensui/miyagiyc.html> (閲覧日：2024年7月17日)
- 4) [https://www.instagram.com/miyagiyc/p/C8IDJLWSHSA/?img\\_index=1](https://www.instagram.com/miyagiyc/p/C8IDJLWSHSA/?img_index=1) (閲覧日：2024年7月17日)
- 5) <https://www.city.kakuda.lg.jp/soshiki/12/18577.html> (閲覧日：2024年7月17日)
- 6) [https://x.com/fujisaki\\_dept/status/1794948251021725886?s=46](https://x.com/fujisaki_dept/status/1794948251021725886?s=46) (閲覧日：2024年7月17日)